



大月小学校 道徳科 授業づくり講座 教材研究会・授業研究会

今回は、大月町立大月小学校で行われた、6月8日（火）教材研究会と、7月6日（火）授業研究会での授業づくりの様子を紹介します。

大月小学校2年生「モラルジレンマ学習」に挑戦！！

◆モラルジレンマ…複数の結論の間で悩み葛藤すること

葛藤を解決させるを通して、道徳的なものの見方・考え方を高める

モラルジレンマ学習

第2学年「だれにたくさんあげようかな」

【主題名】えこひいきしない 【内容項目】公正、公平、社会正義C(11)

授業者：岡崎 順哉 教諭 講師：高知大学教授 森 有希 先生

道徳科の目標

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

本時のねらい

ケーキを誰にたくさんあげるのかを考えるを通して、自分の好き嫌いや利害にとらわれずに行動すると、自分も周りも気持ちよく生活できることに気付き、誰に対しても分け隔てなく公正・公平に接していこうとする道徳的判断力を育てる。

教材研究会

授業研究会

大月小学校のコンセプト：子供たちに問いを持たせる授業の工夫

模擬授業後の協議ではこんな意見が出されました。

「どんなこと」「どうする」「どうしたら」と解決行動を問うだけでは、道徳的価値に迫ることができないのでは？

余った1個のケーキを誰にあげようかと悩み葛藤するジレンマをしっかりと押さえるにはどうすれば？

「えこひいきしないようにするには、どうしたらいいかな？」と児童自身に問いを持たせるには？

もっと集団に目を向けさせることで、みんながいい気持ちになることについて考えさせたい。

それを受けて…

森 有希 教授のご講話

森 有希 教授

★児童に問いを持たせる

児童自身が主体的に考えることに繋がる。

○発問の工夫

・何を考えさせたいか、明確なねらいを持つ。
・考えたくなる、児童の実態に合った発問を工夫する。

○子供同士が問いを共有（理解）

・それぞれの学びの参加を促す手立てと工夫をする。
・子供同士で問い返し、対話ができるようにする。

「みんなが笑顔でなっとくする」という【公正、公平】な観点での問いを共有することで考える視点が揃い、自分事として道徳的価値を考え深めていくことに繋がっていく。

★モラルジレンマの学習展開の例

児童の直観的な判断や理由から自分の考えを持つ。

↓
友達の考えなどを聞きながら比べる。

↓
理由付けをしながら考えをまとめる。

悩むうさぎくんの考えに焦点を当て、自分だったらどうするか理由付けをしながら話し合うことで、自分の好みや利害によって行動を変えるのではなく、誰にでも公平に接することで自分も相手も周りも良い気持ちになることに気付かせ、公正、公平についての考えを深めさせたい。

〈模擬授業での発問展開〉○発問 ◎主発問

○うさぎさんはどんなことで悩んでいるのかな？

【テーマ：これでいいと思える判断をするためには】

○あなたがうさぎさんならどうしますか。そう考えたわけも話してください。（タブレットで自分の考えを表示）

○うさぎさんは、どうしたいと思っているのだろう。

◎どうしたら、みんなで楽しくケーキが食べられそうかな？

授業者

岡崎教諭



〈教材研究会から改善したこと〉

○「何を選ぶか」「どうするか」という行動面ではなく、「なぜそう判断したのか」という判断の理由を問うことで、理由付けを大切に、判断のレベル（公正、公平な視点での理由）へ高めていく。

○導入で、「うさぎさんはどんな風に迷っているのか」を考え、児童の中に問いが生まれるようにする。

○展開の後半で「みんなが楽しく笑顔になるためには」と公正、公平な視点での問いが持てるようテーマを出し、最後の発問「みんなが笑顔でなっとくするために大切なことは何か」に繋げる。

【指導の要点】

自分の好みや利害によって行動を変えるのではなく、誰にでも公平に接することで、自分も相手も周りも良い気持ちになることについて考えを深めさせる。

〈授業を通して引き出したい児童の考え〉

・好き嫌いで誰かだけを特別にすると、自分も周りもよい気持ちにならない。
・みんなが納得できたら、みんなが気持ちよく過ごせる。
・一人一人のことを大切に考えることが大切。

本時の板書

1. 問いを持つ⇒葛藤
「うさぎさんはどんな風に迷っているのかな？」
*うさぎさんの心の中を考えると、児童の問いが生まれるような発問の仕方に。

2. 考えを持つ・考えを比べる
葛藤⇒判断基準
◎「あなたがうさぎさんならどうしますか。（理由も）」
*解決行動ではなく、そう判断した理由を大切に、問い返ししながら深める。
*タブレットで自分の考えを示してから、そう考えた理由を話させる。

3. 判断基準の明確化
「うさぎさんは、どうしたいと思っているのだろうね。」
*この発問から、「みんなが楽しく笑顔になるためには…」というテーマにつなげ、問いを共有させる。

4. 判断基準⇒道徳的判断
「みんなが笑顔でなっとくするために大切なことは何かかな？」
*公正、公平な判断についての考えを深める。

森 有希 教授のご講話

道徳的価値の本質的な理解につなげるためのさまざまな工夫

問いの共有のさせ方

・「みんなが楽しく笑顔になるためには？」など公正、公平な視点で問いを共有する。
→ 共通の視点で問いを共有することで道徳的価値を深める。
・揺さぶる発問が必要。→ 揺さぶり発問で行動や行動の中にある道徳的価値が何かを表出させていく。

中心発問

・「みんなが笑顔でなっとくするために大切なことは？」など公正、公平な判断について考えを深める発問をする。
→ 道徳的価値に対する考えを深めていく。

教材の特徴に応じた授業づくり

・例えばジレンマ学習での葛藤場面では、役割演技など登場人物の立場になって考える。
→ 自分事として考えられる工夫を行う。

参加者の声

○モラルジレンマという教材と、それを扱う難しさについて学びました。メンター会での研修にしたいと思えます。
○判断・行動ではなく、それに至る理由、道徳的価値の本質を掘り下げていくところを大切に授業でした。
○教材研究会、授業研究会と両方参加させていただき、自分だったらどうするか、授業の流れを考えることができました。また、一度目で教材の内容、押さえどころなどを把握した上で授業度を参観することができました。

